

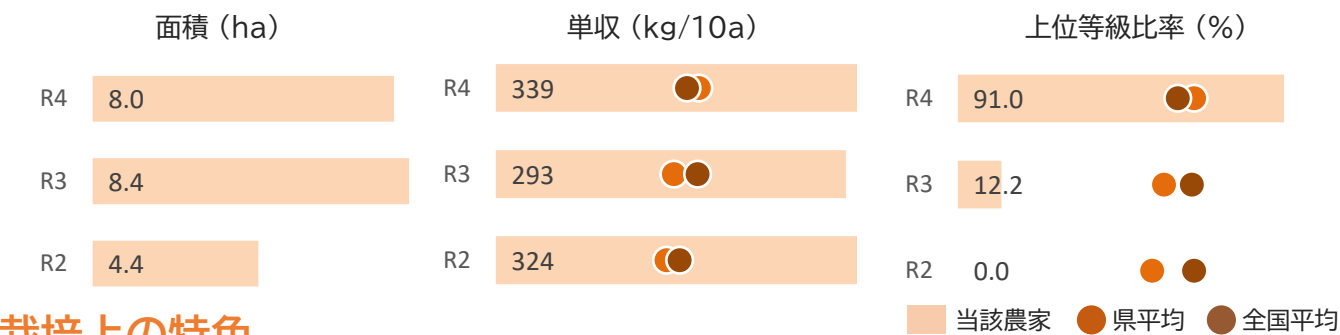
高い栽培管理技術 & 高収量の実現

やすだ ひろき
安田 大樹 氏

長野県安曇野市

就農年月 平成24年
構成農家 安田 大樹(その他家族3名)
基幹作物 大豆8.0ha(ナカセンナリ)、水稻13.7ha、麦類9.4ha (R4)
特 徴 多収化と高品質生産を意識したブロックローテーション(2年3作)
地域内唯一の摘心栽培による倒伏防止、品質・重量の確保
最新機械導入による、効果的かつ省力的な作業の実施

大豆生産状況



栽培上の特色

- 多収化 | 水稻を挟んだ2年3作体系の実施。大豆の出来高をみて水稻期間の調節を行い、限られた農地で最大の所得を得られるよう工夫。開花期前に摘心を行い着莢数の増大と倒伏防止に努め、難防除雑草の発生を防止する為、こまめな巡回と手抜き作業を実施することで多収化につなげている。
- 省力化 | ドローンを活用した防除作業を行い、作業時間を大幅に削減。
- 新技術 | 堆肥入り炭苦土等の新資材活用を試験し、地力の維持と作業効率向上を目指す。

経営上の特色

- 最新技術導入により、効率的・省力的な作業を行いつつ、手をかけるべきところには労力を投入することで、長期栽培可能な環境を整備
- 施肥、播種、排水対策を同時に高速度に行う機械の導入により、省力化を実現
- 地域の圃場整備計画にも大きく関わり、地域農地を引き受けることにより耕作面積50haまで拡大予定(令和11年)

販売・消費拡大への取組

- 地元業者からの要望による黒豆茶専用の黒大豆の栽培や、地元加工所にて自家製味噌作りを手がける等、地産地消を意識した多様な実需者ニーズに応えようと努めている。

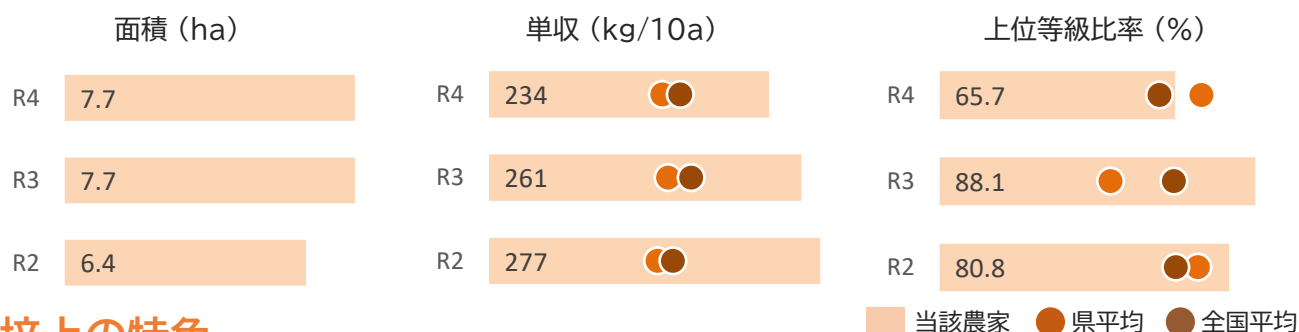
後継者確保育成&地元特産品供給による地域貢献

農事組合法人 寺井

群馬県太田市

組合設立	昭和61年(寺井集団転作組合。平成28年に法人化)
構成農家	31戸
基幹作物	大豆7.7ha(里のほほえみ)、水稻17.1ha、麦類19.3ha (R4)
特 徴	共同機械導入、ブロックローテーション(2年4作)による低コスト・高品質栽培 後継者育成に取り組み、組織の継続性を維持 耕作放棄地解消や地場産大豆の供給による地域貢献

大豆生産状況



栽培上の特色

- 多収化 | 2年4作のブロックローテーション(大豆-小麦-水稻-小麦)による連作障害回避
- 省力化 | 圃場の区画拡大・均平を行い、機械作業の効率化を実現。また、ブロードキャスタ導入による施肥作業効率化、ハイクリブーム導入による適期防除と省力化の実現
- 新技術 | ドローンによる圃場空撮を実施し、圃場毎の生育状況の把握と収量格差解消に向けた取り組みを開始
- 湿害回避 | 弾丸暗渠と下層土塊の粗大化を目的としたカルチを施工し、湿害を軽減している。

経営上の特色

- 耕作放棄地、返却予定水田の積極的借り上げによる農地集積と規模拡大
- アシストスーツを導入し、収穫・選粒・色選・袋詰め等の重労働作業軽減
- 「田んぼダム」に取り組み、地域全体の水害防止に寄与
- 定年帰農者を後継者として確保・育成し、組織の継続性を意識した活動を実施
- 関係機関の実証試験に積極的に協力

販売・消費拡大への取組

- 近隣唯一の大豆生産組織として、地元食品会社や道の駅へ供給
- 実需者のニーズに即した加工適性の高い「里のほほえみ」への品種転換

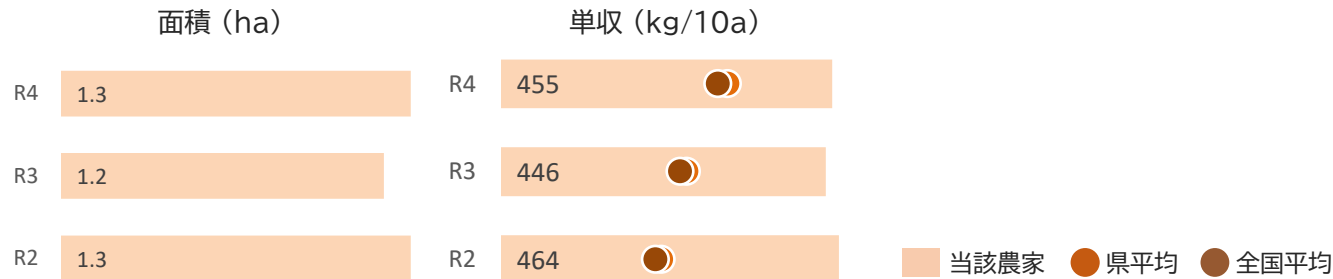
減化学肥料・減農薬栽培の実践&多様な販売形態による販路拡大

篠崎 文利 氏

千葉県千葉市

就農年月 平成12年
構成農家 篠崎 文利
基幹作物 豆類1.3ha(ナカテユタカ・千葉半立)、秋冬にんじん3.8ha、
春だいこん1.0ha (R4)
特 徴 地域に先駆けた新技術の導入、独自の栽培試験、
各講習会への参加による積極的な経営改善

落花生生産状況



栽培上の特徴

- 省力化・低コスト化 | 排出バインダー付き脱莢機を導入し、作業効率上昇(1.5倍)
- 化学肥料削減 | 落花生の生育状況や圃場特徴に合わせ、もみがら・コーヒークズ・米粕・牛ふん等の地域材料を使用した自家製堆肥を使用し、化学肥料の使用量を削減。
- 高品質化 | 作物の生育状況や圃場特徴を細かく記録し、高品質生産に向け活用。

経営上の特徴

- 消費者へ「おいしく安全な野菜」を届けることを経営理念とし、自家製堆肥や緑肥による土づくりと輪作に取り組み。
- 規模拡大に向けた飼料作物(デントコーン)の試験栽培を実施し、積極的な経営改善に取り組み
- 新規就農者への栽培指導や高齢化した生産者の圃場の受託等、地域農業へ貢献

販売・消費拡大への取組

- 実需者との情報交換を毎年行い、要望に応じた品種構成を検討
- 直売所や個人直接販売、イベントを通じた販売・試食を通し、消費者へPRを行い販路促進に取り組み